

(4) シルバー派遣事業における通勤災害報告の事故(休業1ヶ月以上)

令和5年度は、合計35件で昨年度の17件から18件の大幅な増加となりました。事故の型別では「転倒」が23件で、昨年度の12件から11件の増加となり、全体の66%を占めています。「交通事故(道路)」は9件で、昨年度の4件と比して5件の増加、「その他」が3件となっています。男女別の内訳は男性12件で3件の増加、女性は23件で15件の増加となっています。

なお、死亡事故は1件でした。

	事故の型	事故数(件)	男性(件)	女性(件)	平均年齢(歳)
通勤災害	転倒	23(12)	7(4)	16(8)	74
	交通事故(道路)	9(4)	4(4)	5(0)	72
	墜落・転落	0(0)	0(0)	0(0)	—
	その他	3(1)	1(1)	2(0)	72
	計	35(17)	12(9)	23(8)	73

() は令和4年度の発生件数

注 ハチ刺され 毎年6月～10月は事故が多く発生しています。

令和5年度の統計で「蜂、犬、蛇等に刺され、噛まれ」の事故は、900件発生(※6月97件、7月324件、8月217件、9月136件、10月65件)し、事故総数の19%と多く、これまでは重篤事故になりにくいとされてきましたが、ここ数年、死亡事故となってしまっています。

ハチに刺された場合、蜂毒にアレルギーがなければ刺された箇所に軽い痛みやかゆみ、腫れなどが起こり何日かで消えます。しかし、蜂毒アレルギーがあると刺された人の10%くらいが、全身のじんましんなどの皮膚症状や嘔吐、呼吸困難などが起こる**アナフィラキシーショック**を起こすとされ、命の危険がおよぶ確率が高くなります。また、過去に蜂に刺されたことがある方は、**アナフィラキシーを起こす危険があるので、抗体検査をしておくことを事前の対策としてお勧めします。**その結果、抗体がある場合は、就業を控えましょう。

注 ハチに刺されないためには

- 1 作業前にハチが飛んでいないか、必ず作業現場の状況を確認しましょう。
- 2 常に「携帯用ハチ撃退用スプレー」をそばに置いて作業しましょう。
- 3 巣に近寄らない、巣に振動などの刺激を与えない、巣の近くでは作業しないことを常に心掛けましょう。
- 4 皮膚の露出をできる限り控えましょう。
- 5 黒地の着衣等での作業は控えましょう。
- 6 香水、化粧品等で匂いのするものは避けましょう。

注 ハチに刺されてしまったら

- 1 流水で洗い流し、針が残っている場合は取り除きましょう。
- 2 患部から毒を絞り出しましょう。
- 3 患部を冷やして、毒が回るのをおさえましょう。
- 4 アナフィラキシーを疑う症状(発疹、めまいなど)が出たら、すぐに119番通報して救急車を呼んでください。
- 5 一人での作業はやめましょう。

